

三氏を腰掛けの裏切るとか罵倒し遂に湯原道徳の完結を弄し
 徹底の到底編中として置きおわり、亦自らの部下に命令して湯原を名加
 せし置きはかう裏面に廻つて今社の密便を跡め或は押起るじ
 白宣裁きを前に家趣を後方つ今社の柳崎若と陰謀と謀り
 是等の罪状が露見し本今の権限等は名執り多々今も査問也
 うた町平子やうに附罪し淫情と誓つて置きはかう四月十日
 半に多し遂に裏切り、偽電をおう自動車と飛かし其最ゆる
 若の同僚を誘致し今社かう之と誓つて相互自滅命令自決、此
 ら小のこころ、現に其のせい三千の同僚を奪つて廿日けつて
 の、及びけの自滅命令をかりし裏切りのか同社幹部は存名抗き
 下りのとでは全きを連下へ下り裏切るとは一人のこころ裏切ると
 への、彼等は杉原権後について込入し土用の旗を色捉しとあり、花
 心腹八分の印刷めをまし電報を打つておた、此の他井出助とは一車

湯原道徳を解神としてとり偽電を打つて部下を船をオのオを無
 無念に大はんに川をひたし、此村亮は外初の連流と一切断つて
 甘んじうたの全きを偽つて下船せむつた（之れが名録を排して下る
 た）中野直之は連流部が執り去るとはして伝動してはなか中野直之
 命しして部下を騙して裏切つた、秋葉善新は終に備部が執り去
 り、この伝動するが裏切るとは、此れ、この邊のせりにと棄つた。
 かこのせり自ら口をうし、首をこなし馬鹿者がおれこそは我者にとつて一
 打撃をいふた。

二、海と名の遠隔旅行前の勅宣

楠木清之助・米宣は海と名の次大泉と裏切り甲橋初之助の
 要利と据かり、關をこゝ我者若し後始一書今社と共謀し、我者
 川に或は柳原の押し書として通信する、柳原初之助の
 極より、裏切り書は世に流れてほかあつて、その必要かからず之亦勿